

学位 (修士・**博士**) 論文要旨

看護学専攻 理論看護学分野 基礎看護学教育研究領域	学籍番号 0833001  氏名 猪狩 崇
論文題目	対応困難な事例にしないための対象理解の構造 —在宅療養患者への地域包括支援センター保健師の支援過程の分析を通して—
<p>Keywords : 看護 生活過程 追体験 対象理解 対応困難</p> <p>本研究の目的は、地域包括支援センターの保健師として関わった対応困難事例との支援過程を分析して、なぜ対応困難になるのか、対象理解をどのように深めていけばよいかについて、明らかにすることである。</p> <p>研究方法は、地域で対応困難とされた1事例および、対応困難化の可能性がある3事例、計4事例の看護過程記録を研究資料とし、「対象の事実」「保健師の認識」「保健師の言動・状況」の欄を持つ研究素材フォーマットを作成し研究資料からキーセンテンスを該当欄に記入し研究素材とする。分析は、研究素材フォーマットに「保健師の認識特徴」、「そのときうかんだ像」、「全体像を描く際の位置づけ」の分析欄を追加し、保健師の認識特徴が自分の位置にいるか他者の位置に移っているかを吟味して「保健師の認識特徴」欄に〈自分の位置〉または〈他者の位置〉を記入し、その時の認識を思い出して「そのときうかんだ像」欄に記入、それらの認識の全体像を描く際の位置づけをし該当欄に記入する。次いで場面ごとに「看護過程の現象」、「その論理」、「保健師の認識特徴」を抽出し、各事例の対象理解の構造を明らかにする。4事例の対象理解の構造を比較検討し、共通構造を抽出し研究結果とする。</p> <p>研究結果：研究素材は4事例、計13場面となった。各事例ごとの対象理解の構造は、          A【その人の強い個性を感じた場合には、長い生活過程のすべてを背負った存在としてとらえ、自己の体験像とも重ねながら相手の立場での追体験を繰り返すことで対象の頭の中が見えるようになる】、B【妄想性の障害の原因をつきとめたい場合、障害をもつにいたったその人の人生をしっかりと押さえ、症状があらわれざるを得ない状況への追体験を繰り返すことで、自己の体験像も材料として相手の位置からみた社会との関係性やその時の感情が感じ取れるようになる】、C【老年期の疾患の予防が必要な場合、その人の一連の生活過程を過去から現在まで描けるようになることで、自己の体験像とも重ねてその生活をつくりだしている相手の立場をわが身に迫る実感とともに追体験できるようになる】、D【認知症の人とかかわる場合、健康時から発症、現在に至るまでの生活過程をふまえて健康の段階を把握しつつ、対象がどのような世界をみているか自己の体験像も手掛かりにしながら追体験することで、相手の位置に移行でき、気持ちのありようや変化を感じ取れるようになる】であった。これらの対象理解の構造を比較検討し抽出された共通構造は【対象の全体像を描いて相手の立場での追体験を繰り返しかかわる中で、対象が健康時から、発症時、現在までの生活過程を背負った存在として見えた時、自己の類似の実体験像とも重ね合わせ相手の認識と近似的な像を感情として描くことで、相手の位置に移行でき、相手の気持ちを感じ取って三重の関心を注げるようになる】であった。</p> <p>結論：上記の対象理解の共通構造に加え、それを実践に生かすための条件として以下の2点が見いだされた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 常に実践方法論に沿って三重の関心をそそぐかわりを続けることで相手からのSOSにいち早く気付けるセンスを養いつつ、相手の立場での追体験が相手の位置に移行したものとなるように、自己の実体験像も重ねて相手の認識に近似的な像を感情として描く訓練を積む。</li> <li>2 地域で支援活動を行う看護職は、対象と直接かわれない時間の隔たりや生活空間の広がりについて、生活過程の見えない部分を得られた事実から科学的理論に導かれた対象理解の共通構造に沿って描きだし、より早く相手の位置への移行ができるよう、自己の実践を振り返りながら訓練する。</li> </ol>	

1,200字以内、A4版

指導教員氏名 (自署):

猪狩 崇

平成 23 年 2 月 14 日

宮崎県立看護大学大学院  
研究科長 薄井 坦子 様

学位論文 (修士・博士) 審査委員

主査 氏名 (自署) 薄井 坦子

副査 氏名 (自署) 丈名 明裕子

副査 氏名 (自署) 新田 なつ子

副査 氏名 (自署) 浅野 昌亮

## 学位論文審査及び最終試験の結果報告書

このたび、審査委員会として、学位論文 (修士・博士) の審査及び最終試験を終了したので、その結果について下記のとおり報告します。

## 記

学生氏名	猪狩 崇	学籍番号	0833001
看護学専攻	理論看護学	指導教授氏名	薄井 坦子
成績 評価	学位 論文	最終 試験	合格
論文 題目	対応困難な事例にしないための対象理解の構造 —地域包括支援センター保健師の在宅療養患者への支援過程の分析を通して—		
審査要旨	<p>本研究は、地域包括支援センター保健師として関わった対応困難事例との支援過程を分析して、対象理解の構造を明らかにしたものである。</p> <p>予備審査では、実践の全容や研究過程を描く上で必要な材料の提示に欠けていて質疑応答に時間を要したが、実践内容と研究の意図が評価され、実践を導いた保健師の認識の構造分析を事実に・論理的に進めるよう求められた。</p> <p>本審査では、4 事例 13 場面をもとに、各事例への保健師の対象理解への転換点を見いだしてその認識の特徴を浮き彫りにし、対象—認識—表現の過程的構造を抽出し、4 事例の共通構造から、地域で生活する患者を対応困難な事例にしないための対象理解の構造を論述し得た点で、理論看護学上価値ある研究として認められた。なお、対応困難事例の概念規定と対象患者の選定理由を明らかにし、分析過程を資料上に明示することによって、論文の完成度を上げるよう助言された。</p>		